



内田 一樹 新連載

右も左も分からぬまま、現勤務校である自由の森学園で働くために埼玉県に来て4年の月日が流れました。初めての担任クラスが今度の4月で高校3年生になります。

1巡目も終わる節目の年ですが、新しくこのマガジンで執筆を始めました。この間社会科の授業実践者として対人援助学と社会科教育をつなげていきたいという野心のもと様々な実践を試みてきました。社会科として振り返る場はたくさんありましたが、対人援助学という視点から振り返る場はありませんでした。このマガジンを通して、まずはこの野心をもっときちんとした言葉で表現できるようにしたいと思っています。



社会科の授業を
対人援助学の視点から
P289～

来須 (らいす) 真紀 新連載

新連載です。できるかな？できるの

か？私？できるでしょう？やってみようかな？よし、やってみよう。と、飛び込ませていただきました。なるべく長く続けられと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

私は広島市で小学校の教員をしています。今は算数の専科をしていて3～6年の算数を担当して研修部の部長もさせてもらっています。担当しているといっても、実は私、算数や授業研究の分野がとても苦手なんです。高校の数学では、赤点の連続…。大学の統計学では不可に次ぐ不可という苦手ぶりです。

しかし、私の強みはこの苦手ということでした。苦手だからこそ、子どもたちのつまずきそうなところも感覚的になんとなく分かるし分からないときの気持ちも想像しやすく思います。子どもたちにもこのことはカミングアウトしており、「先生の計算ほどあてにならないものはないからねえ。」なんて言いながら授業しております。(数学研究室出身の若い同僚に「僕の弱点は、数学が得意すぎて数学が苦手な人の気持ちが分からないことなんですよねえ。」なんて言われて、本気で落ち込んだりするのですが)「弱みは最大の武器になる」ここ数年で見つけた私の中の一つの成果です。

本音は生徒指導や教育相談をずっとやりたくて自分なりに勉強をしてきました。校内人事は、そんなことはお構いなし。算数担当や教科研究、近年に至っては研究主任の担当ばかり任命されてきました。ここ最近では、若い人を担任にするから若い人育成とサポートに回ってほしいと言われて、(単学級、学年各1クラスの学校の宿命ですかね…)担任もたせてもらえず毎年4月の校内人事はがっかりでした。

今となっては、ありがたい修行をさせてもらえたのだと感謝しています。長—い目で私を育ててくださった皆様。本当にありがとうございます。おかげで私は、ここに辿り着くことができました。そして、みなさん、どうぞよろしくお願いいたします。

教室の窓から P286

山本 竜司 連載二回目

1月、全国的に大雪に襲われた時期に、山陰地方にフィールドワーク(調査研究)に行ってきました。大雪の合間を縫って、奇跡的に現地入り・帰還できました。交通機関がストップした一面の雪景色の中、土地勘のない地域をひとり徒歩移動。人見知り(自称)の私ですが、2日間で7人の社会教育主事にインタビュー調査を行いました。新たな知は、対話から生まれるものだとあらためて実感した旅でした。心を動かすのは、かならずしも客観的な知ではなくて、主観的な知なのかもしれません。

社会教育の周縁 P279

中谷 陽輔 連載二回目

連載2回目、無事に原稿を書き終えました。自分が普段考えていることを、事実ベースで出来るだけわかりやすく書き起こそうと思っているのですが、考えているだけのことと実際に行動する(この場合は書いて文字化することですが)ことは、やはり違うなあと感じています。

「知行合一」じゃないですが、そのギャップを埋められることを、自分の2023年のテーマにしていこうと思います。なお、連載初回の対人援助学マガジン第51号では、拙稿(pp316-318)に続いて、「特別連載 家族面接の実践から里親家族支援を考える その1 ジェノグラムフリートーク」(pp319-325)のコメンテーターとして、ダブル出演させていただきました。貴重な機会をいただいたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

ちなみに前回の拙稿末に、プロフィールとして何の気なしにこれまでゆるゆる書いていたBlogのリンクを載せたら、月間で数回あるかどうかだったPV(Page View)が、数百回ほどに爆増していました。間違いなく、対人援助学マガジンの影響力かかと存じます。

そんな影響力と器の大きな対人援助学マガジンに寄稿させていただけることに感謝しつつ、そしてつい先週、息子が初めてのインフルエンザになって家庭内パンデミックに戦々恐々としていた自身の器の小さ

さに負けず(今日、1週間ぶりに保育園に行きました・・!),引き続き励んでいきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

コソダテノシンリ P281

櫻井 育子

最近、馬に乗った。馬は優しい、とよく言われるが本当にそうだった。おとなしい。あんなに大きいので、蹴られたら大怪我どころで済まなそうなのだが、馬と人の関わりの歴史は本当に長く、人と共に生きることがDNAに組み込まれているのだという。一方で人間はいまだに傷付け合い、戦争を繰り返している。

今回訪れた南相馬市の「野馬追」の行事は、まさに戦争に勝つための軍事練習から始まったお祭りである。人間の都合でたくさんの馬がなくなったことも彼らの歴史の中には刻まれているにもかかわらず、彼らはとても穏やかである。同時にその穏やかさはある種の諦めなのかもしれない、とも感じた。わたしたちはなにかを諦め、なにかを手放す。でも諦めないもの、手放さなかったものだけが、自分の形を作っているのかもしれない、と馬の背中であつたことがあつた。



わたしはここにいる P277~

鳴海 明敏

県庁職員を定年退職した翌月に新規開設された、情緒障害児短期治療施設(現在は、児童心理治療施設)の園長を引き受けてから、13年目に入っています。

学園の各部屋には、それぞれ愛称がつけられています。職員室は「ほしぞら」、事務室は「あさひ」、医務室は「はるかぜ」、相談室は「こなゆき」という具合です。二階の子どもたちの居室には、オリオン、シリ

ウス、タイタンなどの名前がついています。

この施設の開設を決意し建物を建て、私を園長に呼んでくれた当時の理事長の、夢や希望が込められているような気がしています。

園長室には「こかげ」という名前がつけられています。ということで、サブタイトルは「こかげのにちじょう」とします。紹介する子どもたちについては、それなりのカモフラージュを施しています。

毎月1回10人くらいの仲間と、土曜日の午後3時間くらいフォーカシングを練習する集まりを続けている。2月の集まりが190回目だった。

以前は、誰かが希望してフォーカサーになり、そのフォーカサーが指名した相手と15分程度のセッションをし、それをギャラリーが観察して、終わったら皆でシェアリングをするという流れだったが、最近は、3~4人のグループに分かれて、それぞれインタラクティブフォーカシングをすることが多くなった。

オーソドックスなフォーカサーとしてフォーカシングを体験するよりも、インタラクティブフォーカシングの話し手の方が、皆さん取り組みやすいようだ。(了)

ここ数年朝はパン食なのだが、最近「豆苗」に目覚め、毎食サラダを食べている。

児童心理治療施設の園長室から ~こかげのにちじょう~ P275~

高木 久美子

東海地区遷延性意識障害者と家族の会「ひまわり」でのヨミトリ君体験プログラムが順調に拡大中です。ご参加者の熱意で盛り上がっていてとても嬉しいです。意思伝達装置ヨミトリ君だけでなく、ご家族や支援者の中で現在5名の方が書字介助ヨミトリ(指談)にも挑戦していて成果をあげています。当事者の方々の喜びの笑顔が何よりの励みです!

ヨミトリとヨミトリ君で一緒にしましょ! P269~

きむら あきこ

昨年の10月に放送大学に入学しました。生涯学習のつもりです。11月には中間テストのような存在の課題があり、今年

の1月には、単位認定試験がありました。前期目標としていた15単位、無事合格することができました。

放送大学は、インターネットでも視聴することができ、様々な学習科目を学ぶことができます。社会人経験があるからこそ、理解がスムーズになる科目も多々あります。知識が広がることをとても楽しく感じています。今年はまだ一つ、挑戦したいことがあります。挑戦できたら、また近況報告したいです。

かぞくのはなし P266~

原田 希

3月末まで1年間、前年生産量から5%ダウンさせる生産抑制がんばりました。抑制をがんばるって変だけど、農協や買取先の乳業メーカーが言うとおりにやりました。牛を減らすための努力というのは本当に不毛です。気分までも抑制される生活があつた5年も続くのか...離農も増えそう...と深いため息。ただ、焦点を牛の健康に合わせて動いた甲斐はあつて、いま残っている牛はみんなツヤツヤでビュツとしています。どんな時も牛には励まされるなあ。牛も家族も元気ならいっか!4月からの新期にも立ち向かいます。

原田牧場Note P209~

野中 浩一

1か月前の大雪。島根も例年よりも長らく冷え込み、除雪されている大通りを車で1つ曲がると積雪4~50センチの小道が続く。車の足をとられて身動きがとれず、家まで1分くらいの距離で何度も下車して雪をかき、また数メートル進むと動けなくなり雪をかき。

そんなマイナス5℃の灰色世界の中、夕方の病院の駐車場でバッテリー上がり。いつもオート点灯にしているライトが1段階切り替わっていたことに気付かなかった痛恨の失敗。灰色の空と真っ白に凍りついた地面、天候は吹雪。普段は人の行き来が多い病院の駐車場も一人一人通つておらず、広々とした駐車場に動いているものは自分のみ。寂寥を感じながらロードサービスを待つ。

ロードサービスが到着。1時間ぶりに見

る動く車と動く人。ほっとして車から吹雪の世界に踏み出したときに携帯が鳴った。東京 03 局番からの着信。反射的に出ると「〇〇広告っすけど、今どんな広告を使っていますか。」と若い男性の声。「すみません。今出先で、吹雪でゆっくり話せないのでもたにさせてください。」と伝えると、「え、まだ雪降ってるんすか？」と一言。瞬間、男性の配慮のなさや軽薄な言葉遣いにイラッとした感覚がこみ上げるとともに、私が 20 代前半に池袋でテレフォンオペレーターをしていた頃のオフィスが脳裏に浮かび、「今東京は雪降ってないのか、まあそんなもな」という隔世の感も去来。

安部公房「獣たちは故郷を目指す」の蒲州の果てしない雪原ではなく、ロードサービスが駆けつけてくれる島根の凍り付いた駐車場で良かったと思えた瞬間でした。

「島根の中山間地から Work as Life」 P257～

畑中 美穂

娘と出かけたお寺で写経をした。過去に一度経験はあるが特に印象には残っていない。日ごろから毛筆に馴染みはなく、小学生の頃の習字教室は友だちが通っていたからという理由で習っていてモチベーションは低かった。先生の家の前にある某大学の古い洋館が好きで、美しい造形をながめたり敷地で遊んだりしたことを思い出す。

さて今回はお寺に納経した後、なぜかハマってしまい細々と続けている。一時に全文が書けない時もあるが、数行でもずっと高い集中状態に入り込み、心が平らかに感じられる。何度も書くうちに部分的に諳んじられるようにもなっているが、宗教心や字の上達といったところとは無関係に、“続ける”ということさえ目標にせず、赴くままに楽しむのもいいかなと思う。そういえば芸術大学の書道の先生のワークショップで、筆を手作りして文字を書いたことがあった。蒼い絵の具で「波」と描いた時、「うわあ！」と思わず声が出て感動した。“あそぶ”なかで文字を書く贅沢を、いつか、味わってみたいと思う。

一語一絵 P241～

渡辺 修宏

自身や家族がちよっと体調不良になると、……コロナか！？と、びびりまくっている季節が、まもなく過ぎようとしています。最近では、自身や家族がちよっと体調不良になると、……ま、また、奴が来たのか？と、花粉症の季節を感じるようになりました。

対人援助実践をレポートする この一冊 P246～

米津 達也

この春、学校を卒業する娘が東京に出ることになった。都会やひとり暮らしの憧れは痛いほどわかるが、送り出す親の立場としては複雑極まりない。言いたい小言や忠告も沢山あるが、それを堪えて消化不良を起こしそうになる。そんなもよもよの夜には、団先生の「家族の練習問題9」を手に入れている。何度も繰り返しながら、親子の気持ちを消化している。



川下の風景 P239～

高井 裕二

非常勤先の高等専修学校の卒業式と勤務する大学の会議が重なってしまい、調整に難儀しています。高等専修学校の生徒からは「先生、卒業式に来ないとか……嘘やろ。待ってるで」とプレッシャーをかけられてます……。この号が発刊される頃には答えは出ていますが、この 2 週間は頭を抱えていると思います。

福祉教育への挑戦 P244～

本間 毅 退院支援研究会

本マガジン第 51 号で「新潟水俣病問題」に区切りをつけ、第 52 号と 53 号は「多職種協働におけるナラティブの意味」について述べるつもりで準備を始めていた。しかし、12 月も末になってから、心理・ナラティブ関連の出版社「遠見書房」か

ら、本年 3 月に開催される「第 11 回ナラティブコロキウム」で、「チーム医療とナラティブ」というテーマのワークショップをコーディネートするよう依頼があった。まさに「共時性」と呼ぶべきか。

錚々たるメンバーの中、ナラティブの専門家ではない私が担当を仰せつかり驚いた。でも考えてみれば私のワークショップが 3 月 10 日で、無料で閲覧可能な本マガジン第 52 号の発刊が 3 月 15 日、有料の「ナラティブコロキウム」全体の見逃し配信は 3 月 19 日までという微妙なスケジュール。マガジンの読者が研究会に参加する可能性も考えると、私自身がネタ晴らしをするわけにはいかないだろう。

第 52 号は休載し、ワークショップでの質疑応答などを盛り込み、53 号から連載を再開する我儘を皆様にお許しいただきたい。

私は 20 年以上前から退院支援の研究を続けている。その成果(アウトカムよりプロセスやメソッドに近い)を整形外科やリハビリテーション医療の学会で公表するには、意に反する修正を余儀なくされることがあった。2015 年の第 7 回大会(京都)での口頭発表と、『対人援助学研究』誌への投稿で対人援助学会にデビュー、2017 年に「退院支援研究会」を発足してから、大げさに聞こえるかも知れないが、心の命じるままに研究を続けている。それだけ消耗も激しいが、考えていた以上に得ることや会える人が増え本当に幸せである。

休載

土元 哲平

今号は、休載とさせていただきますが、この 3 ヶ月、TEA 国際集会に海外出張にと、これまでお会いできなかった多くの方と語り合える機会がありました。3 月 3 日からは発達心理学会@立命館大学！多くの方と改めて対面でお話できること、楽しみにしています。

キャリアと文化の心理学 休載

玉村 文

11 月に対人援助学マガジンの読書会に参加させていただきました。テーマは子育てしながら働く母親たち。それなのになぜか夫婦関係の話題がたくさんでした。

夫への不満や父親としての役割期待なども語られていました。夫婦関係と母父関係って似ているけど違う。どんな風にパートナーを認識しているのか、そしてそれをどのように他者に伝えるのかを考えさせられる時間でした。そして、おもちゃ会社ピーブルの社員さんもおっしゃっていましたが、「これからは父親の時代」。子育てや母親をテーマにすると、父親にも必然的にスポットライトが当たる時代になっているのだなと感じました。

応援 母ちゃん！
P217～

川畑 隆

「かけだ詩⑫ファイナル」

「かけだ詩①から⑫まで」で一区切りすることにしました。3年間の連載でしたが、ホントに時の流れは速いものです。

この3年間、所属先から離れ、ちょっと休んでまた新しい所属ができて、そしてそこから「かけだ詩」と同時に離れます。これからの所属は「そだちと臨床研究会」ですが、「それって何だったっけ？」と言いついてしまふまで、これは続くだろうと思えます。

「こんなふうには書けるんだ！」と気づいて「かけだ詩」を書き始め、その面白さで連載の辛さもまったく感じずに3年間を楽しく走ってきたのですが、ストックがちよっと底をついてきたし、だから書かなくちゃと気持ちが高まって、気がついたら他のことをしてるし…ということでファイナルです。「こんなふうにはできるんだ！」と思えることが新しく出てきたら、また載せてもらおうことにします。それがいつになるのかはわかりませんが、その時までさようならです。ありがとうございました。

かけだ詩
P212～

高名 祐美

勤務先で出会ったデイサービスの利用者 H さん、女性67歳。脳性麻痺のために車いすで生活し、言葉を発しづらい。そんな H さんがこれまで書き溜めた詩を一冊の本にしようと取り組んだ。作成途中、何度も H さんからは「詩集ができることが今の楽しみ」という言葉を聞いた。一方で「H さんの詩集を仕上げる」と自分のデスクに

付箋メモを貼ったが、なかなか仕上げられない。そうだ、期限をきめよう。そう思い、完成予定を H さんの誕生日に決めた。H さんの了解がえられ、担当のケアマネさんにも手伝ってもらってようやく誕生日を1日前にして詩集が完成した。1冊の本となった詩集を前に、H さんは「感謝・感激で胸がいっぱい」と涙をこぼした。詩集完成は H さんへの素敵な誕生日プレゼントとなった。

フリースクールでのSW実践を考える
P206

松岡 園子

先月、母に洗濯乾燥機を買いました。母の足腰が弱くなってきたため、これまで自分でしていた洗濯物干しを負担に感じるようでしたが、自分でしたいという気持ちが強いようでした。使ってみて自分できるところが良かったようで、快適そうです。何より、私の気持ちが楽です。

毎日、今ある環境で生活することが当たり前になってしまうことが多いのですが、何かをきっかけに新しいものを取り入れ、自分や家族を楽にしていけることが大切だと改めて感じました。



統合失調症を患う母とともに
生きる子ども
P201～

杉江 太朗

児童家庭の領域で働く杉江です。最近、ニュースなどで、「～が値上がり」と良く聞きます。とはいっても、スーパーなどでは、値上がりをしていることを知った状況で買い物をするため、値段を見て驚くこともなく、必要だから仕方がないと思って支払いをしています。しかし、買い物をしたときに値上がりをしており驚いた場面があります。それは、神社でお守りを購入した際です。毎年、担当している子どもに受験生がいると、決まった神社で御守りを購入して渡しています。今回、御守りが、500円から700円に値上がりしていました。ニュース

で、「御守りが値上がりした」とは聞いたことがありません。確かに神社にとっては、お賽銭を値上げするようにいう訳にはいかず、収入源であるお賽銭の額も減っているのかもしれませんが。さらに御守り自体の運搬料や制作料なども様々な値上げの影響で上がっているとすれば、御守りそのものの仕入れ値も上がっていると思われます。そう考えると、売値を上げるしかありません。そんなことより御利益も増えているのでしょうか。

「余地」-相談業務を楽しむ方法-
P197～

浅田 英輔

クルマの運転が好きです。毎朝、1時間半ほどかけて通勤しています。冬のひどいときは2時間を超えることもあります。2021年の冬は、1時間半かけて半分しか行けず、その先は通行止めになってしまったのもう1時間半かけて帰った、ということもありました。でも、たくさん降ったあとの次の日の道路は逆に走りやすかったりもします。そういう早朝にドライブ(という名の通勤)をするのも楽しかったりします。南国の人は、きれいな雪煙などみたことがないのかもしれませんが。寒ければ寒いほど、細かな雪が舞い上がり視界を遮るのです。雪はいやだけど、消えてしまうのもさみしかったです。乾燥路面もサイコー！

臨床のきれはし
P99～

三浦 恵子

役所からの帰路、少し気になる高齢者に出会いました。とても寒い日でしたが、彼女はひょいと自室から出てきたような軽装でした。私はとっさに徘徊を疑い、まず彼女の足元を確認しました。しっかりしたスニーカーを履いておられました。これが「つっかけ」ならすぐに声をかけたでしょうが、まずはこの時点では一定の距離をとって様子を見ることにしました。歩行は速度は杖歩行の私に比べしっかりとされていたので、一見すると健康のためのウォーキングのようにも見えます。ただ、手にはバックなども持っておられず、途中で摘んだと思われる野花が握られていました。交差点に差し掛かるたびに、何かを探しているような御様子でもあり、この時点で、

徘徊の可能性を半ば確信しました。

ただ、生憎私は怪我の治療中であり、声をかけた瞬間にふっとしゃがみこまれるなどの状態となった場合、支え切れる自信がありませんでした。まず安全第一を考え、彼女から目を離さないようにして最寄りの交番に立ち寄り、中にいた職員の方に頼んで、一緒に声をかけることになりました。やはり帰り道が分からなくなっていた方だった。

彼女は暖かな交番で椅子を勧められたとたんどつと疲れが出た様子でした。御住所もわからず電話番号などの手掛かりありません。ちょうど私の官舎の近くの交番だったので、私はいったん自分の部屋に戻り、羽織る暖かな衣類や汗を拭くタオル、衛生用品を用意持参し、住所地番はなかなかいえないけれど「小学校の近くの～」という言葉が出てこられるようになり、地図などを広げきいてみたりした後、警察官に引き継ぎました。

結果的に、姿が見えなくなった彼女を探している御家族がおられるという情報が警察に入り、無事彼女はパトカーで家路につき、警察からは用意した衣類やタオルの返却がありました。

この日、私はとても疲れていて、この方を拝見した時も、一瞬「正常バイアス」(大丈夫じゃないか?)が働きそうになりました。ただ、この時、かつて10年以上実母の在宅介護をしていた時代、夕暮れ時になると私を探して家を出た母を、近所の方々が探してくださったことを思い出しました。もしこの方が植え込みなどに転倒されれば、着用されている服の色合いなどもあって人目につきにくく、気温は下がる一方という状況であり、私は亡き母に背中を押されるような気持ちで声をかけルに至りました。



警察の方が「無事家族のもとに帰られましたよ」という報告とともに預けた衣類を受け取った後、自身の介護が地域に支えられていたことなどを色々と思い出し、少しの気付きや違和感といったものを大切にしていきたいと改めて感じました。

更生保護官署職員

(認定社会福祉士・認定精神保健福祉士)

現代社会を『関係性』という 観点から考える P222～

迫 共

年明け、道後温泉に行きました。広島からは高速船で1時間ちょっと。海を隔てた隣県へ。松山城にリフトで上がり、徒歩で下山。二の丸庭園を散策して愛媛県美術館へ。「発見された日本の風景」展を見ることができました。江戸から明治にかけて近代化されていく日本の様子を垣間見られる絵が大量に展示されており、モースやビゴーら外国人が見た当時の日本に想像がふくらみました。道後温泉本館は改装中でしたが、何度もお湯につかって英気を養いました。

保育と社会福祉を漫画で学ぶ P193～

黒田 長宏

YouTube のアップで録画が2ファイル分になっていたのが気になりだして、1ファイルにしようと思ったがために苦勞することになった。なんだか欧米の関税の関係で、ビデオカメラとデジカメを区別するための措置でファイル分割があるとか、SDカードをSDXCカードにすべきだとか、なんだかなんだかとファイルが分割されてしまう理由が錯綜しているらしい。結局、録画装置を変え、(中古で買ったとも言う)追究をやめて、結合ソフトを採用した。ここに書くと煩わしくなりすぎる経過は省略せざるを得ないが、YouTube の登録者1000人突破を本気で目指さない結婚難も婚期が大事であり、YouTube も新たな設定を試みようなどとするとだんだん面倒くさくなる。2ファイルから1ファイルにしようと思ってしまったのも苦勞の原因だが、人々の欲望がドローン飛ばすことによって頭上に落下しないことを祈るばかりだ。

(2023年2月11日)

ロシアのウクライナ侵攻による原油などの影響での電気代値上げの話でも書いて出そうと思って開くと、既に短信を書いていたが、全く忘れてしまっていた。しかしながら、それにかこつけて電気代を値上げしてしまう電力会社たちの既得権益と原発利

権というのには、大部分の人々が騙されているとしか思えない。私は2011年には福島で反原発運動のデモの先頭で行進した人間である。

10年ちょっとで利権のほうが勝ってしまう日本という国にいたら、本文の婚活どころか、やる気がなくなるね。政治家どころか、庶民側だってろくでもない事件ばかりだ。

<https://konrankyuuujotai.jimdofree.com/>

あぁ結婚

P174～

尾上 明代

母親がお世話になっていた理学療法士の A さんが、勤務先の都合で異動になった。これまで何人もの PT さんにお世話になって、何回目かの交代である。A さんは、本当にテイラーメイド的な対応で、その時間を有効に、また母に合うようにいろいろな工夫を下さったことに感謝している。母がお花が好きと聞くと、スマホに花の名前を当てるアプリを入れてきて、一緒に当てるゲームをするなど、PT さんのお仕事イメージとは違うことも取り入れてくれる。その対応力の高さの秘密を知りたいと、話を聞くうちに、謎が解けた。

彼の前職は、ホテルのコンシェルジュだったのだ。もう本当に無理難題をお願いしてくるお客さんたちの要望に応じてきたのだという。寝坊して自分の乗る飛行機に、明らかに間に合わない時間になっている人の「何が何でも〇〇行の××便に乗れるようにしてくれ！」というリクエストにも対応したとのこと。また、〇〇のチケットをとってほしい等、依頼内容は普通でも、ホテルをチェックアウトしたあとに、お願いの電話をかけてくる人もいるらしい。「それが、一カ月前に泊まっただけの人もいたんですよ！」と。ホテルのコンシェルジュをそのように利用しようとする人の気が知れないが、よほど彼が頼り甲斐のある人と思ったのだろう。その点は、同意する。

しかし、なぜその職業を辞めて PT になったのか聞くと、ご家族が皆、医療従事者で、転職を強く勧められたからとのこと。「病院の廊下をお年寄りと歩くだけの仕事」と聞かされ、コンシェルジュより楽だと思ったのに、勉強も大変だったし、なかなかハードな仕事だった、と苦笑していた。

彼の仕事に対する姿勢は、職業がどんなに変わっても同じなんだとわかった。

ドラマセラピーの実践・研究・手法 P80～

松村 奈奈子

行動制限のない冬は久しぶり。どーしても見たかった流氷を求めて、2月初旬に網走に。まだ流氷は少なめで、ゴリゴリという感じでは無かったのですが「おー、これが流氷か！」と感動しました。

京都も外国人でごった返していますが、流氷観光船も外国人でごった返していました。みんな、流氷をみたいのよねー



精神科医の思うこと P146～

柳 たかを

松本零士先生死去の報と思い出

2023年2月21日(火)の某朝刊一面に「松本零士さん死去・銀河鉄道999・宇宙戦艦ヤマト」という見出し記事が掲載された。

私は縁あって2005年春から宝塚造形芸術大学(現・宝塚大学)メディアデザイン学科マンガ・アニメコースの教員として働いていました。働き出してまもなく我がマンガ・アニメコースに特任教授としてある大物マンガ家が来られると聞かされました。名前を聞いてビックリ、「松本零士」ホントかなーと。

1989年に巨匠・大天才、あの手塚治虫先生が亡くなられて以来、自分はマンガの太陽が沈んだような寂しさを感じていました。手塚先生の作品群だけでなく、先生が関西在住の頃、10代から20代の手塚先生がマンガに注いだ情熱と数々のエピソードに魅了され(勝手に)親しみを感

きたので、その後には活版屋に活躍したマンガ家に対して、実のところ少し覚めた見方をしていたと思います。

大変失礼なのですが、私は超有名な松本先生の招聘が成功したのは学部としてはよろこばしいけれど、むしろその作品群の連載は当時拝見していたし魅了され素晴らしいと思うけれど実際のご本人がどういう方なのか、自分のイメージが先行して実際にお迎えするのが不安で緊張しました。

2月の冬休み、大学のラグビー場グラウンドで「松本零士が芸大学生と巨大地上絵を描く」イベントが企画され、完成した地上絵をテレビが空撮してニュースとしても流れました。

松本先生が長い棒でグラウンドに線を引きながら歩いて行くあとを学生たちが白い石灰で線を埋めていく方法で土のグラウンドに銀河鉄道999のキャラクター・メーテルの横顔を描いていったのでした。絵は大きすぎて地上に立つ人間には何が何だか分からないのですが、空撮で見るとちゃんと“メーテル”のステキな横顔なのです。これには驚きました。事前練習もななくぶっつけ本番でしたから。

先生は、必要なこと以外はべらべらと喋られることはなく、誰に対しても節度のある穏やかさで話してくださいました。

その後の大学ご訪問時の新大阪駅～大学の送迎は、毎回私が喜んでさせていたのですが、最初の時に私の態度が少し先生には疑問に感じられたのか、ボソッと「私は(戦えば)強いんだ！」とつぶやかれたのです。おそらくその時の私の態度に違和感を覚えられたのかと思います。

いやはや今も思い出すと冷や汗が出ます。ただそれ以後、大学講堂での合同授業や大学主催のマンガ大賞などではいつも気持ちよくご協力頂きただただ感謝しかありません。もっと他にも思い出すエピソードがあるのですが、長くなるのでこの辺で、

松本先生、安らかに、いつか時の輪が巡り会うところで、またお会い出来ることを願っております。

東成区の昭和 思い出ほろほろメモ P150～

団遊

世の中のムード的に「コロナがあげたのかな」と感じるのは、自身が猛烈に忙しくなってきたからです。アソブロックの社長を辞めてから撒いていた種が、芽を出し始めているということもあるでしょう。一方で、メンバーに思わぬアクシデントが起こり、リスクヘッジが不十分だったことから、出番が増え過ぎてしまっている事案もあります。何事も一寸先は闇なのですが、闇に対する準備が、少々コロナボケしていたのかもしれない。

そんなわけで、今回も連載はお休みだな、と思ってファイルを確認していたら、なんと、昨年のうちに大筋を書いていた原稿が出てきました。備えあれば患いなし。完全に忘れていたので、飛び上がって喜び、数カ月前の自分を褒めてあげたくなりました。

今号から「団遊の脱線の経営言論」と称して、「給料とは何か」「採用とは何か」「売上にはどう向き合うべきか」など、自分が実践の中で積み上げてきたものを単元化してまとめていこうと思います。

団遊の脱線の経営言論

P34～

村本 邦子

今年度、後半よりにわかに忙しくなり、次々とやるべき課題に追われている。せっせせっせと仕事を片付けても、次から次へとまた降ってくる。それもこれも、調子に乗って、あちこち出張を入れているからなので自業自得とも言える。今、婦人相談員のインタビューを重ね、女性支援の物語を聞いて回っているのだが、これがとても面白く考えさせられることが多い。ただし、どのようにまとめるかはいまだ悩み中。いろいろなことを好きでやっているわけだが、年齢を考えて、自分で自分の首を絞めないよう用心しないと。

周辺からの記憶 一東日本大震災 家族応援プロジェクト

P116～

國友 万裕

京都での生活がいよいよ40年になります。僕は最初は受験の直前まで東京に行く予定でした。それがひょんなことから京

都に来てしまい、考えてみると数奇な運命だったのですが、今はすっかり京都での生活ができあがってきました。中京区で暮らし始めて、はや 36 年。京都の中心地で暮らしているので極めて便利です。

ただ、僕は漬物が食べれないし、そばにあるのも無理なくらいの漬物嫌いなんです。その僕が、京都で暮らすというのは考えてみれば変な話ですよね笑。



(悪戯です！ 編集長)

僕は生まれは九州ですが、九州男児のイメージじゃないとはいって言われまじ、自分でも思います。九州男児的じゃないのに九州に生まれ、漬物が嫌いなのに京都で暮らす笑。ステレオタイプから外れているけど、人間ってステレオタイプカルにはいかないです。だからこそ多様性の時代。

60 年近くも生きてると、人間なんて、一步踏み込めばみんな変なのだとすることはわかってきます。これまで多様性を認めなかった社会のほうが未成熟だったんでしょ。

もっと遅れて生まれてきたかった！

男は痛い！
P87～

西川 友理

白鳳短期大学で保育者養成に、その他いくつかの場所で社会福祉士など福祉系専門職養成・おび育成に携わっています。

今回の記事に書いてある「不適切である」と「不適切と言われる」ことに関連して、「そうである」と「そうだとされる(思われている)」の違いってちょっと意識してしまいます。

「出来てない」と「出来てないと思われる」では前者はシンプルに落ち込むけど、後者的の方が不利益が多そうで怖い。「出来ている」と「出来ていると思われる」では前者は特に何もありませんが後者は何か焦る。「出来ている」のに「出来ていないと思われる」のは「理不尽」だと感

じる。実際どうか、ということと他者からどう見られているか、ということのギャップには名状し難い味わい深さがあります。

「どんな風に思われても構わない 私は私のやり方ですすむんだ」というのはなんだかヒーローっぽくてカッコいいですが、「そうは思いきれない自分がある」という小さい現実についても受け入れて、そんなわたしも面白いよね、と大事にしてやりたいなあと思っています。(多分それは、よく言えば社会性があるってことですよ、うん。そうだそうだ。そういうことにしておきましょう。)

**福祉系対人援助職養成の
現場から**
P61～

坂口 伊都

立命館大学主催のフォスタリング・ソーシャルワーク専門講座で、里親家庭の体験を話す機会をいただきました。里父、里母、里姉それぞれの立場で感じたことを話しました。

里姉である娘とは、何回か一緒に話をする機会がありましたが、今回は、里父も初参加する形となりました。皆の前で話しながら、夫が言葉を詰まらせる場面がありました。

「自分の子どもにしてやったことを里子にもしてやりたかった。それが、里子にとっては過剰な刺激になっていたのかも知れない」と、声を詰まらせ涙ぐんでいました。

夫なりに良かれと思ってしていたことが、今となって思えば、裏目に出てしまったようだと思えているようでした。皆の前で話す機会がなければ、夫の気持ちをいつまでも知らないまま過ごしていたでしょう。娘と二人で話す時とは違う展開になり、家族がお互いの気持ちを知る時間となり、不思議で貴重な体験となりました。貴重な時間をありがとうございました。

立場が変わると何が見える
P111～

河岸 由里子

【障がい者枠】発達障がいの困り感はず中々一般の人にわかってもらえない。見てわかるわけでもないし、人それぞれ困り感も違う。それでも発達障害者支援法、障害者差別解消法等ができて、少しは認知

が上がったのかと思いきや、全くダメ。

ある青年は、自閉症スペクトラム障害を持っていて、不安が強く、強迫的になりやすい。そういう人には声掛けが大事である。障害者枠で、障害を明示して就労したところ、一人で放っておかれることや、指示があいまいで何をすればよいのかわからない中、他の職員から「使えない」「早くしろ」などと罵声を浴びせられるなどあって、どんどん状態が悪化していく。採用担当者からはいつでも相談してと言われていても、その人が居なかったり、連絡を取っても返事が来なかったりという状況ではどうにもならない。

同じく自閉症スペクトラム障害と ADHD を重ね持つ母子のケースも、母親の方は、仕事ができるが対人面が苦手で敏感なので、気配りは必要。最初は良かったものの、だんだんぞんざいな扱いになってきて、彼女自身辛くなり、自殺願望が出てきてしまった。子どもの方も同じところで働いているが、注意されることが多いからか、どんどん体重が減って行って、食べてはいるが太れず、不安定な状況。

日本の障がい者理解は、まだまだと言わざるを得ない。障がい者枠で障がい者を受け入れるなら、その人の特性をしっかり理解し、その人が困らないように、きめ細かな支援が必要である。その覚悟、用意がないなら、受け入れるべきではない。助成金があり賃金も安く雇えるからと安易に受け入れられた障がい者は、精神状態を悪化させ、結局仕事を辞めざるを得なくなるだろう。これは本人にとっての失敗経験となってしまふ。安い給料でひどい扱いを受けるのであれば、障がい者枠で働くことは本人の精神状態に対し、この上なく危険である。理解もないまま受け入れるのは、障がい者に対するハラスメントだし、補助金を受け取る詐欺とも言えるのではないかな？ 障害者雇用をするなら、しっかりと障害者雇用促進法の合理的配慮を読んでほしい。合理的配慮は法的義務である。

ハローワークを通じて就労しているため、ハローワークと労働基準監督署にも、話をしに行かねばならないが、精神的ダメージを受けてしまった彼らにはそれすらもこの上なく負担だったりする。障害者雇用促進法が出来て60年(合理的配慮の文言が入って2年)、発達障害者支援法ができ

ておよそ20年、障害者差別解消法が来て約10年、これだけ経っても、社会ではまだまだ十分理解されているとは言えないし、ハラスメントもなくなっていない。昨今 LGBT-Q についての法案が挙がっているが、発達障害については20年もたっているのに理解されていないのだから、LGBT-Q が理解されるには何十年かかるやら…。

公認心理師・臨床心理士・北海道
かうんせりんぐるむ かし 主宰

ああ、相談業務

P67~

先人の知恵から

P169~

岡崎 正明

先日テレビを観ていたら、平野レミが生放送で料理をするという、挑戦的な番組をしていた。

すごかった。自由な進行。大雑把…いや、ダイナミックな作業と、唐突な会話。NHKのルールも、世間の空気も完全無視。そしてとにかく本人が心から楽しそうで。予定調和とか、相手にどう思われるとか、そんなの勘ヶねえ感じ。

そうだよ。フライパンからこぼれた食材を手で拾って戻したり、焦げた料理を下に隠したり。それが我々がリアルで接する「料理」ってもんだよ。面白すぎるぞ。平野レミ。まだまだテレビには底力があるじゃないか。これならラジオ同様に生き残るんじゃないか。



そんな風に思って観ていたら、さらに驚かされた。平野レミの番組が終わると、次はなんと伝説の家政婦、タサン志麻の料理番組が始まったのだ！落ち着いた雰囲気と、素朴でオシャレで、かといつて肩ひじ張らないタサン志麻の生き方と料理の数々。ひと口に料理家といっても、これほどの振れ幅があるとは。多様性に圧巻だ。

この番組編成は、明らかに「料理家のオープンダイアログ」狙い。ハーモニーではなく、ポリフォニーを見せつけるものではないか！（考えすぎ？）

やるじゃねえか NHK。心の中でそうつぶやいた。

役場の対人援助論

P94~

大谷 多加志

Twitterで流れてきて、目にとまったニュースが「秋田県の1年間の出生数が4千人を割り込んだ」というもの(2023年2月の月報による推計値でしたが)。秋田県の人口は約90万人。毎年1万人以上人口が減少している県であるとはいえ、ひとつの県の年間出生数が4千人に届かないとは…と衝撃を受けました。大規模な大学では、年間入学者数が7-8千人に及ぶこともあります。もちろん、現在の18歳人口と出生数には年代の開きがあることは承知ですが、数字で示されることで人口減少のすさまじさを改めて実感しました。

一方、現在住んでいる京都市は昨年、人口減少日本一を記録しました。背景にあるのは住宅価格の急騰で、ウクライナ侵攻なども影響して建築資材が高騰する中、市内より地価の安い周辺の市町村に人口が流出しているようです。経済は人の手でコントロールできるものではないとはいえ、経済に人の暮らしが振り回されているように見えるのは、何とも辛く感じます。

とは言え、まずは自分の手の届く範囲からできることを重ねるしかありません。以前、就職について少しだけサポートした修了生が、無事来年から正規採用になると報告に来てくれました。またご縁があって実習先で就職することになった学生もいました。今の所属になって2年。力不足を感じる場面ばかりですが、何か少しでもご縁をつなげたかなと感じる出来事があるのは本当にうれしい限りです。

発達検査と対人援助学

P101~

馬渡 徳子

昨年9月末、無事に大学院を卒業できた。この経験は何にもかえがたいものとなった。

指導教官やゼミ生の仲間から、自分自

身の文章の特徴を、厳しくご指摘頂いたことは、手話通訳養成課程時にも「一文が長い」と同じことを言われていたなあと、ふりかえることとなった。

現在は、次年度の関連学会において、内容を絞っての研究発表と学会誌への論文投稿を目指して研究を継続している。

コロナ禍において、研究対象が自己免疫疾患患者さんであることから、研究デザインを何度も変更せざるを得なくなったが、快く研究協力を下さった患者さん方に報いるためにも、患者会の全国理事としても、やり遂げたいと思う。

馬渡の眼

P149

団 士郎

やると決めたからしている事なのだが、それにしても、やり慣れない準備は苦勞だ。先ほど(2/27)は、ホノルル展に出すマンガ掛軸を発送する国際郵便EMSの伝票を書くのに長時間かかってしまった。なのに現在、遅れが出ているので、到着の予定日は明言できないと言われた。NYの時は三日で着きますと言われてその通りだったのに。(結果的には3月5日には到着)

英語版「木陰の物語」の掛軸が活動するのは久々。2015年にはじめてNYのギャラリーで、その後、上海、台北、多賀城でも展示した英語版。ソウルでは一作、ハンブルグ版を。蘇州では中国語版四作品が展示される機会があった。

「木陰の物語」を描き始めた2000年頃、こんな未来になるなんて思いもしなかった。

振り返ってみると、こうなりたと思って為したことは私の人生にはごく僅かな気がする。面白そうだと思うことを続けていたらこうなっただけで、たいていのことの今の結果を目指した記憶はない。もっとも世間は、こんな選択は少数派で、誰もが目標に向かって…みたいにいる。そしてそうでないものは怠け者のように言う。

でもそれって世の中に蔓延する欲望に洗脳されているだけな気がする。私が怠け者なわけはないだろうから、異なる動機づけが存在することに近年、思い至った。分かりやす過ぎる目標は、達成すると、すぐに次の目標を探さなければならなくなる。ゆっくりと自分は何がしたいのだろうと思

案したり、まさかこんな幸運に遭遇すると
は・・・なんて時間が持てるのが長寿社会
の利点だ。

晩年 D・A・N 通信③ P43～

鶴谷 圭一

対人援助学マガジンに記事が蓄えら
れてきて、ほんとに時々ではありますが、
「対人援助マガジンの〇〇の記事を見た
けど、ちょっと聞きたい・・・」というお電話を
いただくことがあります。ずいぶん前に書
いた記事だと今は変化していることもあり、
その都度お伝えしたりしています。

幼児教育現場の方や、関連のある方が、
読んで頂いてなにかしらヒントにして頂け
るのはありがたいなあ、と感じますし、園
内の資料としても活用できています。

継続していくって“力”が溜まるんだな、
ということを実感するこの頃です。

原町幼稚園 <http://www.haramachi-ki.jp>

メール office@haramachi-ki.jp

インスタ haramachi.k

ツイッター haramachikinder

幼稚園の現場から P57～

水野 スウ

今年はここ北陸も、雪が多く寒さ厳しい
冬だったけど、雪がとけ、土が見えてきた
庭ではリュウキンカが早くも金色の花を咲
かせています。

「紅茶の時間」は40年目にはいりました。
コロナの時期からさらにはやらず、静かな
紅茶がもう当たり前。それでも今年の冬か
ら春にかけてはなぜか遠方からの、お初
に見えるひとが多いです。今号に登場す
るのは神奈川県のひと。その翌週は九州
からのひと。その翌週、3月最初の水曜日
には、大阪からはじめてのひとをお迎えし
ます。

いついつの紅茶、あいてますか、誰が行
ってもいいんですか、などと連絡もらった
時は、毎週あいてます、どうぞどうぞ、きつ
と貸切よ、といつもお伝えする。だけどふ
たを開けると、たいてい途中から誰かはい
ってきて、遠くからのひと、来慣れている
ひと、私たち夫婦、一期一会の共演者に
よる、シナリオなしのドラマがそこに展開し
ていきます。遠くからきた人には、貸切紅

茶とまぜこぜ紅茶、一度に2種類味わえて、
それもまたこの空間のおもしろいところか
な。

初対面同士の紅茶。語りあう中で思い
がけないシンクロ発見！って、しょっちゅう
あるある。マガジン今号では、外からもた
らされた「消費」「期待」「対話」といったワ
ードから、あらためて紅茶を見つめ直して
気づいたこと、綴ってみました。

きもちは言葉をさがしている P80～

脇野 千恵

最近「性教育」への関心が高まっている。
思春期保健相談士として中学校への出前
性教育に出向いたり、大人向けの研修に
招かれることが多くなった。学校現場での
「性教育」は遅々と進んでいない状況があ
る。なぜ？と問われることがある。もともと
日本の教育での「性教育」というと、とても
狭く捉えられがちで、保健体育の授業での
「二次性徴」だけと思う人も多い。今、人
権を基盤とした人との関係性の学びである
「包括的性教育」という言葉を広めている。
心理の人達も「性の多様性」の悩み相談
をうけることが多いらしく、「包括的性教育
を子どもたちに！」という声をあげてい
る。福祉分野の人達なども。今まであつた
だろう「性と生」の課題を、オープンに語れ
る社会になってきたということだろうか。2
0年程前の性教育バッシングから、ようや
くの感がある。これが一時のブームに終
わらないでほしい。さて様々なところでの
声をどう繋げていくのか？道は長いが、包
括的性教育がどの学校でも実践されるよ
うに、もう少し頑張ろうと思う。

こころ日記「ぼちぼち」 P204～

中村 正

4回生たちの卒業旅行に出かけた。と
いっても旅行というのではなく、社会人直
前教育と位置づけ、スタディーツアーとし
た。京都から伊勢志摩へでかけた。大学
院の後期課程に三重ダルクの責任者が
所属している。「志摩ラボ(賢島)」という素
敵な研修と保養のための施設だ。



ここは私の出身地でもある。卒業研究で
は社会病理と自分の関係付けを重視した
ので、社会の課題と個人の課題を統合す
るようみんな素晴らしい研究をしてくれ
た。そのセルフ・アファーマーシオンの意味
もあり、ダルクのメンバーと交流させてい
ただいた。アディクションについての理解
を深めることはこれから社会人としてい
ろんなところで活躍していく際に必要だし、
偏見と差別をなくしていくためにも大切だ
と思ったのでお世話になった。社会人と
しての入り口に立つことへのエールもいた
だいた。なんといってもパワースポットが
多いところだ。自然のなかで育った私の故
郷体験と重ねて楽しめた二日間だった。こ
うした流れに身を任せる。2年前とは異な
る大人になっている若い人たちとの関わり
からエナジーをもらう。また4月には新し
い若人がやってくる。

臨床社会学の方法 P23～

千葉 晃央

今回の対人援助学会第15回大会は広
島大会。その打ち合わせのために、広島
の学会員で大会を支えてくださる方々に
会いに広島へ。

まずは行きたかった広島の宇品に。「う
じな」は読んでいた『暁の宇品一陸軍船舶
司令官たちのヒロシマ』堀川恵子(講談
社)、この本の舞台。私の祖父は満州で行
軍中に溺れそうなくらい深い沼を渡るとき
に、肺に不衛生な水が浸入。それ以来、
肺病のような症状が治まらず結核という
話もあった。そうして満州で傷つき、満州
から広島の宇品港に移送。広島陸軍病院
で療養し、その後秋田陸軍病院に送られ
た。もし、そのままいたら1945年8月6日。
もし傷つかず従軍していたら、その後陸軍
歩兵十七連隊は満州からフィリピン、ルソ
ン島にいき、大変な局面に遭遇していた。
結果的にはいかず。祖父がいた広島陸軍
病院はどのあたりなのか？昔から知りた

かった。広島駅から広島電鉄で宇品二丁目まで下車、広島市郷土資料館できた。あの日、陸軍病院はすっかり吹き飛ばされたことを知る。スタッフの方が本を出して教えてくれた。凄まじい。そして、学会、広島大会をするためには8月6日以外の広島も知りたかった。この資料館は元陸軍缶詰工場を改築している被爆建物。爆風で歪んだ屋根の骨組みもそのまま残り、今に伝えている。カルビーも、アヲハタも、筆も、干潟も、イカフライがなぜ名産なのか？など、広島の様々な側面を知ることができた。

マガジン執筆の仲間の岡崎さんと合流し、人と人、人と社会、広島と世界をつなげるソーシャルブックカフェハチドリ舎さんを訪問。さまざまな社会問題もテーマに活動されている姿が熱い。その後、被爆建物の保存で揺れた元陸軍の倉庫なども見ながら呉へ。潜水艦棧橋には7艇の潜水艦。これも日本の姿。伺った潜水艦に乗艇する自衛官の家族の暮らしも興味深い。とびしま海道ではミカン畑とレモン畑の段々畑と島と島をつなぐ橋の景色、その橋と島が繋がる横に連絡船の景色が素晴らしい。「よみがえる新日本紀行」で見た段々畑の暮らし、連絡船のある暮らし、山田洋次監督作品『故郷』に描かれた景色も思い出された。そして映画「ももへの手紙」の舞台となった汐待の港、御手洗では素晴らしい街並みに圧倒された。



翌日は広島大会のみなさんと打ち合わせ。その後、平和の軸線と呼ばれる、映画「ドライブ・マイ・カー」にも描かれた原爆ドームと原爆戦没者慰霊碑、広島平和記念資料館を結ぶ南北の線へ。広島サミットを控えその線を取り入れた様々な都市計画が進んでいるそう。これも「ドライブ・マイ・

カー」に登場した資源ごみ処理施設、中工場へ。ここは軸線が建物内を貫くことを思想的に意図している仕掛け。元環境局内福祉施設勤務の私にとって、資源の活かし方を考える、市民の安全を願う思いなどは同根。つなぐことに納得。日常の極みと非日常の極み。忌み嫌われる施設がロケ地で聖地でもあり、休日に各地から人々が訪れているのは意図がなせるわざ。そして会場として、お世話になるマガジン執筆仲間の迫さんの案内で比治山大学様へ。設備等を見せていただく。

みなさん、広島大会で会いましょう！足を運ぶ、時間を共有するからこそ、経験、体験、学習できることがあります！お楽しみに！

家族支援と対人援助 **ちばっち**

chibachi@f2.dion.ne.jp

090-9277-5049

障害者福祉援助論

P18~

篠原 ユキオ

創り手の想い

若い頃から映画を見るのが好きだった。封切られた話題作はいち早く観に行き自分なりに感想を書いていた。近年は劇場に出かける事はなくなったが今でも年間に100本以上の映画DVDを観る。主に邦画である。古いものは戦後間もない頃のものから最近のものまで、時代劇、現代劇取り混ぜて監督や役者の顔ぶれを見ながらチョイスする。基本的にホラーとバイオレンスは観ない。この歳になると不快感が残るものは避けるようになった。絵についても同じで自分が描く作品も含めて不快なものは避ける。お金を払ってわざわざ嫌な気分になりたくはないからである。そんな中、最近はなかなか『当たり！』と思える映画に出会わない。

見始めて10分ほどで見るのをやめてしまうものも多くなった。設定に対する違和感、役者の下手さ、セリフの不自然さなど色々突っ込みどころが重なると耐えられなくなるのだ。

そんなつまらない作品を作っている時、作り手はどういう風を感じているのだろうとよく思う。映画は沢山の有能なスタッフが集まって作り上げる総合芸術だが、演者もス

タッフも制作の途中で明らかにつまらないと思われる映画に携わっている事へのジレンマはどう昇華されていくのだろうと思う。その点、絵描きは自由である。つまらないと思ったらすぐに破り捨てれば良い。残念な事に映画も建築も途中でやめてしまう事はできない。そしてその恥ずかしい作品はずっと残る。

そんなことを考えると常に自分の描く物には誠実に向き合わなければと思う。



HITOKOMART
P221~

山下 桂永子

3年前の頃は、教育現場は突然の臨時休業で大混乱の日々でした。災害時以外につくことのない職場のテレビで、臨時休業を伝える首相会見を呆然と見たことが昨日のこのようによみがえります。

3年前は、対話がこれほど難しく、対話がこれほど大切なものなのだとは思いませんでした。コミュニケーションは言葉のやりとりではなく、気持ちのやりとりなのだ気づかされた3年間でした。やりとりですから、気持ちを受け取るだけではなく、伝えることも重要なのだと最近思うようになりましたが、これがとても難しい。最小限の言葉と最大限の工夫で、伝えることがもっと上手になりたいな、伝えることがもっと楽しくなればいいのになと思うこの頃です。まだまだ未熟な表現力ですが読んでいただければ幸いです。

心理コーディネーターになるために
P158~

小林 茂

2022年度より勤務先の学科長兼教務員長となった。これが意外とやる事が多く、毎日時間に追われる日々となった。任期はあと1年。もう1年はがんばらないといけないうのだが、自分を取り巻く世界が

何かシンクロしているのか、会議や締め切りが集中している。

今回も、何を書くか頭の中を整理する間もなく、つらつらと書く始末。じっくりと構想を練って、調べて物書きをしたい心境です。

対人支援点描 P105～

中島 弘美

12月と2月に開催された対人援助学会の研究会にzoom参加した。第28回大谷先生『検査と対人援助学』を楽しみにしていたところ、当日の夜インターネットが不安定で、とぎれととぎれにしか聞き取れず、大変残念だった。悲しい。第29回中鹿先生の『実践と研究を交差させる！実践現場を科学する！』は、ネット状況は安定していた。ほっとする。日頃の実践場面では、研究という視点から遠く離れている。しかし、今回、話をうかがうと、「実践を報告し、発信し、さらなる発展を求めることが義務である」という。素敵な刺激をプレゼントしていただいたと思う。

カウンセリングのお作法 P40～

藤 信子

週に3日ほど、妙心寺へ散歩に出かける。我が家から妙心寺の北門→参道→南門、そしてわが家へという道筋が30分かかかるので、丁度良いコースになっている。いつもはあまり観光客を見かけないけれど、このひと月くらいは、「京の冬の旅」に、塔頭の2つが入っているらしく、それらしいパンフレットを持った人を見かける。この「冬の旅」は、日ごろは公開しないところを見せるらしい。「よその襖を見て何が面白いのだろう」とは言わないが、寄っているようでは、日課の散歩にならない。妙心寺は塔頭の並び方がすっきりと整っていて、静かな佇まいで歩くのにとっても良い。ここを歩けるから転居はしたくないと思うくらい。



解放の心理学へ P37

竹中 尚文

私は12月にPCをハッキングされました。気分の悪いことでした。修理をする間、一ヶ月近く、PCを使えませんでした。その情報を共有したいと思って、以下に記します。

ハッキングされていると気づいたときには手遅れでした。すぐにインターネット接続を切り、電源を切りました。またクレジットカードの会社に電話をして、クレジットカードを止めてもらいました。PCの専門業者に持ち込んで診断と修理をお願いしました。専門業者からPCを返還していただいて、データの流失はないだろうということでした。私はデータをPCには置かず、有料クラウドに保存していました。多くのファイルにはPWをかけていましたので、情報が流出することはなかったようです。

参考までに私が遭遇したハッキングと専門業者から教えてもらったその対策を記しておきます。

*

- ①いきなりPC画面に「ウイルスに感染しています」と警告が出ます。それはネットを閲覧している時や、メールの送受信をしているときだそうです。この警告表示は、ウェブサイトの画面やメールの画面とはまったく異なる緊急性を伺わせる画面でした。私の場合は緊急音声が出せませんでした。緊急音声と伴うことも多いそうです。この警告画面は、マイクロソフトやセキュリティソフトの業者名で表示されます。偽物の表示です。
- ②あわてて画面に表示された電話番号に電話をしてはいけません。私はマイクロソフトだと信じて電話をしてしまいました。そしてハッキングされました。
- ③画面にどんな警告がでようとも慌ててはいけません。その段階ではPCはハッキン

グもされていませんし、ウイルス感染もしていません。だから警告画面を消してしまえばいいのです。

④警告画面の消し方は、右上の「×」印がありませんから、「Alt」キーと「F4」キーを同時に押します。何度警告を出されても、根気よく消すことです。

路上生活者の個人史 P85～

寺田 弘志

「酔っぱらって風呂の扉を壊してしまっただ。俺はDVをしているらしい」と息子から連絡があったのが、去年の12月。すぐに断酒会に入ることや、アンガーマネジメントを学ぶことを息子に勧めました。

断酒会はすぐ見つかったのですが、アンガーマネジメントはどこで学ぶのがいいかわからず、本誌に執筆を勧めてくださった中島弘美さんにどこか良い所をご存知ないですかとたずねてみました。

中島さんからは丁寧なお返事があり、アサーションもいいと思いますよと教えてくださいました。早速、本を2冊買って息子と読み始めたのですが、時すでに遅く、今は離婚調停の準備に追われています。

はじめは酒を飲んだ息子が悪いのだろうと、「子どももお金も相手にあげなさい」と叱ってしまいました。しかし、よくよく聞いてみると、息子は相手とその両親から相当なモラハラを受けてきた結果、酒を飲まざるを得ないような精神状態に追い込まれていたことがわかりました。

「風呂の扉を壊し、怖がらせたことはDVだ」と、子どもを連れ去られた状態で、こんなと言われ続けて洗脳され、自分のしたことがDVでたと自白してしまいました。

お酒に走るような人は、普段は大人しく優しいことがよくあるそうです。自分を抑え込んでストレスをためてしまい、お酒を飲んだりすると感情が抑えられなくなるようです。

息子はとても優しい子です。はじめは絶対にしたらいけないと厳しくつけました。小学校で短文を作る授業があり「お父さんはいじめがきらいです」と書いていました。参観日に家内がそれを「お父さんはいじめるからきらいです」と聞き間違え、私も聞き間違いを信じてしまい、「父さんがどんないじめをした？」と問い詰めたことが

ありました。後で聞き間違いとわかり、息子に謝りました。

中学校で仲間の一人が空き地で物を燃やしてボヤになりました。息子が火をつけたわけではないのですが、友達をとめなかつたことを叱り、息子と二人で空き地の近所に謝りに行きました。近所の方は許してくださいましたが、息子には空き地の草刈りをさせました。そんなことをしたのは我が家だけだったそうで、そこまでなくてもと家内にたしなめられました。

その後火をつけた友達が自殺しました。原因が何かはわかりません。その友達の母親は、私の息子のせいでその子が自殺したと言いつらして回りました。それを知った妻と私は、その母親に抗議しようとした。でも息子は「自分の息子が死んでつらいんや。俺の悪口を言って、気が少しでも晴れるなら、言わせてあげて」と私たちの抗議を止めました。

成人式には、その母親に友達の遺影を借りに行って、胸に抱いて参列しました。そんな優しい息子がDVなどするわけがありません。

どうしてはじめから信じてやれなかったのか悔やまれます。相手の申立てへの抗議を親子で考えている間も、息子は相手をかばうようなことを言うので、親子げんかになることがしばしばありました。ようやく息子がポツリポツリと話してくれた相手側のモラハラを拾い集めて、反論する文書を作りました。明日それを弁護士の先生にお渡しして調停に臨んでいただきます。

2月22日は最悪の日でした。

相手側から申立書が届きました。子ども二人の親権、養育費、財産分与さらに慰謝料300万円を請求するとありました。怒りで一睡もできなくなりました。そして、翌日、とても悲しい知らせが届きました。続きは本文に書きます。

接骨院に心理学を入れてみた

P182~

山口 洋典

コロナ禍もいよいよ収まりの兆しと見えて、徐々に対面での交流や関係づくりの場が増えてきました。1月末の久留米大学での講演の他、2月には東京都足立区の

文教大学での対面での学会、その他にも滋賀県草津市の市民総合交流センターでの講演など、いくつかお役をいただいています。マスク越しであっても、生身の反応が得られると、語りかける上でのリズムやテンポが整う気がしています。今後、2023年5月には感染症法での5類に位置づけを変わるとのことで、マスクを外しての対面が増えていくことでしょう。

そうした中、いよいよ海外への渡航の予定が入るようになりました。3月にはアメリカ合衆国のインディアナポリスに、サービス・ラーニングに関するインタビュー調査などで訪問します。ちなみに、本誌での連載の名称を「PBLの風と土」としながらも、このところはPBLについての言及が少ないことが気がかりだったのですが、先日の50号を機に本誌での連載を終了されたサトウタツヤ先生が3月にデンマーク・オーホルブ大学に立命館大学総合心理学部の学生と共に訪問されるようで、その橋渡しのために久々に2017年度に現地でもやりとりしたスタッフの皆さんとやりとりを重ね、新たな情報を得ることができました。次号以降、サトウ先生が現地で触れたPBLの風や土の内容も、何らかの形で紹介させていただければと願っています。



PBLの風と土
P176~

見野 大介

気付いたら、もう2月も終わろうとしている。怒涛の展示会ラッシュの幕開けとなる3月に入る前に、確定申告を済ませることが出来たことにより、物凄く気持ちが楽になっている。今までは期限ギリギリだったので、これからは2月中に余裕をもって確定申告を終わらせようと思ったものの、果たして来年も出来るかどうか…。

ハチドリのお器

P4

荒木 晃子

昨春、科研プログラムが終了し、同時期、年金受給が始まった。計画通りである。研究期間中、研究実務者&事務局として3年半務め、共著による研究成果物

の出版も果たした。これもまた、計画通り。やっと自由な時間を取り戻した…と思った矢先、コロナ感染が判明。薬剤アレルギーの体に、やむにやまれず、カロナールとロキソニンの服用を続けた結果、無事、陰性を確認。その後、服薬が原因の帯状疱疹を伴う体調不良に見舞われた。弱り目に祟り目とはこういうことを言うのだと、改めて感心。同時に、予想外の出来事を経て経験し、何事も計画通りにはいかなものだ実感する。晴れて自分の時間を取り戻したら、あれもやりたい、ここに行きたいとウキウキしていた矢先の出来事だった。もしかすると、まだ休むな！ということなのかしら？あぁ、わたしの人生ケセラセラだわ。

生殖医療と家族援助 P72~

工藤 芳幸

先日、第25回言語聴覚士国家試験が終わりました。概ねこの大学でも国試形式の模擬試験を実施しています。その他諸々の国試対策を行うのが常ですが、私は個別指導を随分と請け負ってきました。私の場合は一緒に問題を解いたり知識を説明してもらったりするスタイルですが、そうしていると専門用語ではなく、基本的な語彙が不足している学生たちがいることに気づきます。ことばの意味について説明することもあれば、調べてもらうということもするのですが、調べることに慣れていない学生も少なくはないのです。ネット検索でも上手いれない。まともに試験勉強というものをしたことがないという学生もいます。ST養成課程は一般の大学に比べるとカリキュラムが目一杯。臨床実習は480時間。この量をこなせないとなかなか卒業や国試合格までには到達しない。読むものも覚えるものも大量にあります。理解できないままの試験勉強はただ書き写しているのと変わりありません。義務教育のプログラミングも大学で盛んに取り入れられているデータサイエンスも意味がないとは言いませんが…読んで理解すること、聞いて理解すること、言語でまとめ上げること、そのための基礎的な力を取りこぼしてしまって大学まで来て、大きな壁に当たっている。ここに至るさまざまな背景がありそうです。

みちくさ言語療法
休載

劉強

最近、以前より忙しくなっていました。大学院での研究活動をしながら、就職活動を行いました。幸い、就職できて4月から社会人として働きます。今後、研究課題に関する文章だけではなく、仕事で思ったことも書けたらいいな、と思っています。

中国のセクシャルマイノリティ支援
P254～

原田 孝

教師は子どもたちへの対応がメインの仕事なのですが、子どもたちを健全に、しかも効果的に育つことを支援するためには、家庭の協力が必要となります。保護者さんとの連携・協力があれば子どもたちの抱える課題の解決に速やかに向かうことができます。保護者さんとの信頼関係を作る第一歩は、クラスで持たれる個人懇談会ではないでしょうか。初めてのこの面談で、保護者さんとの信頼を構築する一つの方法を今回は考えてみました。参考にしていただければ嬉しいです。

先生のための16のこぼれ
P274

小池 英梨子

執筆者短信を【飼い主さん募集中の保護猫さん紹介】にしてみました。おぼん・こぼん兄弟。ちょっと人見知りですが、遊ぶのが大好きな可愛い兄弟です。関西圏内で里親さん募集中です～。

<https://nekokaramesen.com/satooyabosyutyu/>

そうだ、猫に聞いてみよう
P161～



古川 秀明

新しい講演会&ライブの形を模索しています。いくつかの会場で試していますが、

今のところ好評です。常に新しいものを生み出して行こうとする姿勢を忘れないようにしたいです。だけどそんなことができるのも、呼んでくださる皆さまがおられるからです。その有難さも忘れずに日々精進を重ねて参ります。今回も読んでいただき、ありがとうございました。

講演会&ライブの日々
P138～

安發 明子

フランスの在宅教育支援ソーシャルワークについての漫画『ターラの夢に見た家族生活』の日本語版出版を目指しクラファンで関心のある方を集めている。

支援者と子どもと家族を漫画で見ることで、具体的な支援者の動き、言葉遣い、距離感を知ることができることが魅力だ。子どもたちのためにできることを議論する機会、当たり前を見直す機会になること、日本に生まれてよかったと全ての子どもに思ってもらえる社会になるよう議論が広がっていくことを願う。

前進するためにカルチャーショックもたまにはあつていいのではないだろうか、私は他のやり方を知ることで元気がでる。

ソーシャルワークについて描いたものが世の中に増え、ソーシャルワークが素敵な仕事だと広く認知されてほしい。

フランスでは現在3巻まで発売されているが、今回はまとめて1冊にして出版する。一晩では読みきれない分量と余韻になるはずだ。読みたい人が集まらないと出版できないため、支援をお願いいたします。



<https://greenfunding.jp/thousandsofbooks/projects/6908>

フランスのソーシャルワーク
P225～

中村 周平

編集長の団先生、皆様、自身の体調不良のため今回の投稿は休ませていただき

ます。

自律神経からくるめまいが頻繁し、思うように日常生活を送ることができません。5月の投稿はぜひチャレンジさせていただきます。休みが多く誠に申し訳ありません。

ノーサイド
休載

(お大事に。復活を祈ります！編集長)